

2026（令和8）年度入学試験問題

日 本 史

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題の本文は全部で27ページです。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 解答は、設問に従って、該当する解答欄にマークしてください。なお、すべてマーク解答問題です。解答にあたっては、必ず黒の鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
6. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
 - (1) 氏名・受験番号を所定欄に記入し、該当するマーク欄を正確にマークすること。
 (機械処理上、非常に重要なので誤記のないよう注意してください。)
 - (2) 解答科目欄は、解答する科目を一つ選び科目の下のマーク欄を正確にマークすること。
 マークされていない場合または複数の科目にマークされている場合は、無効となります。
 - (3) 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで完全に消してから改めて書き直すこと。
 - (4) 指定した解答欄以外および枠外の空白部分には何も書かないこと。
 - (5) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないこと。
 - (6) 解答用紙の解答欄をマークするときは、次の(例)のようにマーク解答欄の番号をぬりつぶすこと。

(例) ③と解答する場合

マ ー ク 解 答 欄									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 問題冊子の余白等は適宜利用してかまいません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

- I 「律令制の形成と展開」に関する次のA～Cの文章を読んで、各設問に答えなさい。なお、読みやすくするために、史料の表記を現代語に書き改めたり、省略した部分がある。

A 教師Sは、律令制の下で施行された土地制度に関する史料について、生徒たちにその歴史的な意味を考えさせるため、史料を現代語訳し、ノートを作成した。史料とノートを読んで、以下の設問に答えなさい。

〔史料1〕（養老七年四月）辛亥（十七日） 太政官は「次のように天皇に」

奏した。「最近、百姓が次第に増加し、田や池が不足しています。どうか天下「の人々」に田地の開墾を勧め割り当てたいと思います。「その場合」新たに溝や池を造って開墾した者があれば、「開墾地」の多少にかかわらず三代目まで所有を許し、もし、古い溝や池を利用したときには本人の代にのみ所有を許すことにしたいと思います」。〔天皇は〕この奏を許可した。

（『続日本紀』、原文は漢文）

〔史料2〕（天平十五年五月）乙丑（二十七日） 「天皇は次のように」詔した。

「聞くところによると、墾田は養老七年の格によって、期限が満ちた後、例に従って収め授けている。そのために農夫は怠けてなげやりになり、土地を開墾してもまた荒れてしまうという。今から後は、希望に任せて私財として三世一身「の法」をあてはめることなく、全てことごとく永年にわたって収公することのないようにせよ。〔その土地の広さは〕親王の一品と一位には五百町、二品と二位には四百町、三品・四品と三位には三百町、四位には二百町、五位には百町、六位以下八位以上には五十町、初位以下庶人に至るまでは十町「とせよ」。ただし郡司には、大領・少領には三十町、主政・主帳には十町「とせよ」。

（『続日本紀』、原文は漢文）

〔ノート〕

律令制の時代になり、国家の土地制度は大きく変化した。律令が制定・施行されると、人々は6年ごとに作成される戸籍に登録され、さらに50戸からなる里に編成された。また 。律令の施行により、国家の土地に対する支配は大幅に強化された。

しかし、723年に三世一身法、743年には墾田永年私財法が施行されたことで、土地制度は大きく改められた。**史料1**と**史料2**はこの2つの法の抜粋である。**史料**を読むと、これらが墾田（新たな開墾田）に関する法であることがわかり、政策内容を詳しく確認できる。これら2つの法の解説を通して、生徒たちには国家がそれぞれの法を施行した目的^(a)、墾田の経営方法^(b)、墾田永年私財法が8・9世紀の地域社会に及ぼした影響^(c)を理解させることが重要である。

〔設問1〕 空欄 に入る文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 にマークしなさい。

- ① 天武天皇の時に施行された飛鳥浄御原令と、持統天皇の時に施行された大宝律令に基づき、班田収授法が施行された。
- ② 持統天皇の時に施行された飛鳥浄御原令と文武天皇の時に施行された大宝律令に基づき、班田収授法が施行された。
- ③ 奴婢を除く男女全員に対して、国家が口分田を支給する、班田収授法が施行された。
- ④ 租税を課す成人男性に限定して国家が口分田を支給する、班田収授法が施行された。

〔設問2〕 下線部(a)について述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **2** にマークしなさい。

- ① 三世一身法は、農民人口の減少により口分田が余っていたため、有力農民に耕作者のいない口分田を墾田として支給することで、田地の荒廃を防ぐことを目指した。
- ② 三世一身法は、溝や池を新たに造築して墾田を開いた者に限り永年の私有を認めることで、新たな原野の開墾の奨励を目指した。
- ③ 墾田永年私財法は、身分による開墾面積の制限を撤廃し、貴族・寺社から郡司・農民におよぶ様々な階層の人々による墾田開発の促進を目指した。
- ④ 墾田永年私財法は、墾田について永年所有の条件を与えて開墾を促し、租を賦課する墾田の増加による税収の拡大を目指していた。

〔設問3〕 下線部(b)に関連して、奈良時代の墾田について述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **3** にマークしなさい。

- ① 奈良時代の墾田には、付近の農民に墾田を貸しだし、収穫稲の一部を地子として収めさせる賃租という方式によって経営されるものがあった。
- ② 奈良時代、五位以上の位階をもつ王族・貴族のすべての墾田は、国司によって不輸の権が授けられ租庸調が免除された。
- ③ 奈良時代、太政官を構成する公卿の墾田は、天皇によって不入の権が授けられ、国司の立ち入りが禁止された。
- ④ 奈良時代の墾田の内部は負名という単位に分割され、領主が負名に対して公事を賦課した。

〔設問4〕 下線部(c)に関連して述べた次の文 a～d について、正しいものの組み合わせとして最も適切なものを、下の①～⑥のうちから一つ選び、解答欄 **4** にマークしなさい。

- a 貴族・大寺院は、独自の荘民を持たず、周辺の農民や浮浪人を雇い、農民の開墾地を買い集め、大土地経営を進めていった。
- b 貴族・大寺院は、地方豪族に協力を求めて大規模な開発を進めた結果、各地に寄進地系荘園が生まれた。
- c 墾田の多くは貴族・大寺院の荘園となり、開発に協力した地方豪族は下司・公文と呼ばれる荘官職につき荘民を支配した。
- d 地域社会の中に墾田を集積して富裕になる地方豪族や有力農民が現れ、階層分化が進んだ。

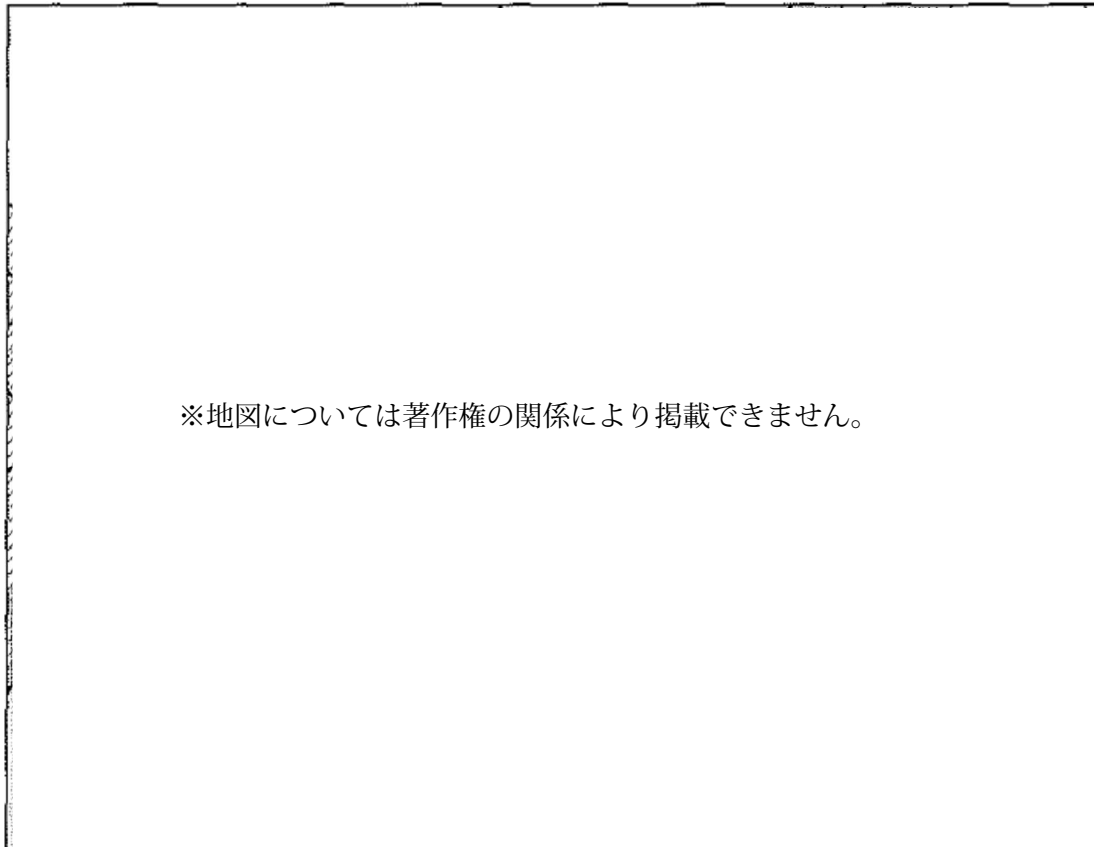
- ① a・b ② a・c ③ a・d
- ④ b・c ⑤ b・d ⑥ c・d

〔設問5〕 三世一身法が公布された723年に政権中枢で活躍した人物の名として最も適切なものを、次の①～⑥のうちから一つ選び、解答欄 **5** にマークしなさい。

- ① 橘諸兄 ② 長屋王 ③ 藤原仲麻呂
- ④ 藤原不比等 ⑤ 藤原広嗣 ⑥ 吉備真備

B 教師Tは、律令国家期における国際関係の特徴について生徒に考えさせるため、次の東アジアの地図と関連するノートを作成した。地図とノートを確認して、次の設問に答えなさい。なお、地図中の空欄 ・ ・ はノート中の空欄 ・ ・ と対応している。

地図



【ノート】

律令国家期の日本は唐を模倣して自らを「中華」と位置付けた。それに伴い、君主号も従来名のつてきた「倭国王」を改め、「中華の王」にふさわしい称号として「天皇」号を正式に採用した。この日本の中華思想は、東北地方の蝦夷や九州以南の南島の住民を夷狄とみなす認識を生み出すとともに、東アジア諸国の国際政治にも影響を及ぼした。たとえば、この思想の下で、イ・ウの2国は日本に朝貢する蕃国と認識された。そのため、イは唐との対立が緩和されると、対等外交を求めて日本との衝突を繰り返した。一方、ウは、唐・イとの関係悪化を背景に、727年に日本に最初の使節を派遣し友好関係を保った。

しかし、907年に唐が滅びると、東アジアの国際情勢は大きく変動した。たとえば、唐の滅亡後、エは新たに成立した王朝の下で周囲に勢力を拡大し、926年、ウを滅ぼした。また朝鮮半島では高麗がイを滅ぼして、936年に朝鮮半島を統一した。

このような国際関係の推移を踏まえ、律令国家期における日本の外交が律令国家成立以前の倭国の外交とどのように異なっているのか、生徒に考えさせることを授業の目標とする。

【設問6】 空欄 イ , ウ , エ に入る語の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑥のうちから一つ選び、解答欄 6 にマークしなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|-----|---|----|
| ① | イ | 百済 | ウ | 高句麗 | エ | 金 |
| ② | イ | 百済 | ウ | 渤海 | エ | 金 |
| ③ | イ | 百済 | ウ | 渤海 | エ | 契丹 |
| ④ | イ | 新羅 | ウ | 高句麗 | エ | 契丹 |
| ⑤ | イ | 新羅 | ウ | 渤海 | エ | 契丹 |
| ⑥ | イ | 新羅 | ウ | 高句麗 | エ | 金 |

〔設問7〕 下線部(d)に関連して、律令国家と蝦夷の関係について述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **7** にマークしなさい。

- ① 光仁天皇の時代になると蝦夷の抵抗が強まり、陸奥国の蝦夷であった伊治皆麻呂による反乱が勃発した。
- ② 桓武天皇の時代、征夷大將軍であった坂上田村麻呂は蝦夷の首長・阿弭流為を降伏させ、北方に多賀城を築いて鎮守府を胆沢城から多賀城に移した。
- ③ 桓武天皇は「徳政相論」の結果に基づき、天皇の徳治を夷狄に知らしめるため、征夷の拡大を決断した。
- ④ 奈良時代、元明天皇は阿倍比羅夫を秋田・津軽方面に派遣し、淳足柵・磐舟柵を築かせた。

〔設問8〕 下線部(e)に関連して、東アジア諸国の国際政治の推移に関して述べた次の文 i～iii について、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選び、解答欄 **8** にマークしなさい。

- i 遣唐使が初めて「日本」という国号を用いた。
 - ii 高句麗が滅亡した。
 - iii 百済が滅亡した。
- ① i - ii - iii ② i - iii - ii ③ ii - i - iii
④ ii - iii - i ⑤ iii - i - ii ⑥ iii - ii - i

〔設問9〕 下線部(f)の課題に対する解答として述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **9** にマークしなさい。

- ① 律令国家期の天皇は、遣唐使派遣をきっかけに、それまで使用してきた倭国王の称号を改め、唐の皇帝から「大王」の官爵を受けた。
- ② 推古天皇は隋の皇帝から「大王」の官爵を受けたが、律令国家期の日本は冊封を受けず「天皇」の君主号を自称した。
- ③ 天智天皇は百済王に対して「百済国王」の官爵を授け、一時的に君-臣関係を結んだことがあるが、律令国家期には百済の反発で持続しなかった。
- ④ 倭王武（雄略天皇）は中国南朝の宋の皇帝から冊封されたが、律令国家期の天皇は唐の冊封を受けなかった。

〔設問10〕 空欄 **エ** の地域における9世紀以後の歴史的展開に関して述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **10** にマークしなさい。

- ① この地域には西夏が建国された。
- ② この地域には遼が建国された。
- ③ この地域には晋が建国され、中国北部に領土を拡張した。
- ④ この地域には大越が建国され、中国北部に領土を拡張した。

C 次の「古代国家の成立を考える」というテーマに関する文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

[テーマ] 古代国家の成立を考える

中世以後の国家の歴史と異なり、古代史は国家そのものの成立の問題を含んでいる点の特徴といえる。国家成立を問題にすることは、「日本」とは何かを考えるきっかけにもなる。

そこでまず国家とは何か、その指標といえるものを挙げてみよう。一般的には、氏族・部族などの血縁による集団の区分とは異なる行政的な領域による人々の区分、^(g)官僚制に代表される統治組織の存在、徴税制の成立、^(h)軍隊の成立、政治や文化のセンターとなる都市の存在、⁽ⁱ⁾国家や権力者の支配を正当化するイデオロギーの形成が重要である。

[設問11] 下線部(g)に関して述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **11** にマークしなさい。

- ① 律令国家は、大宝律令によって支配下の国土を国-郡に区分し、それらの地域を統括する国司・郡司をすべて中央の官人から任命した。
- ② 大化改新の詔に「評」の文字が見えることから、国-評の領域区分は天武天皇の時代に始まったと考えられる。
- ③ 畿内・七道の広域行政区画が設けられ、各道の国府は官道によって結ばれた。
- ④ 郡司の下におかれた里長は、その地域を治めていた国造クラスの地方豪族から任命された。

〔設問12〕 下線部(h)に関して述べた文として、正しいものの組み合わせとして最も適切なものを、下の①～⑥のうちから一つ選び、解答欄 **12** にマークしなさい。

- a 主要な官庁には四等官制がしかれ、長官を主典、次官を判官と呼称した。
- b 蔭位制により、六位以上の貴族の子弟には優先的に高い位が与えられた。
- c 官人を養成するため、中央に大学、地方には国学がおかれた。
- d 太政官の下には行政を分担する八省が配置された。

- ① a・b ② a・c ③ a・d
- ④ b・c ⑤ b・d ⑥ c・d

〔設問13〕 下線部(i)に関して述べた次の文 i～iii について、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選び、解答欄 **13** にマークしなさい。

- i 九州北部に初めて防人が配備された。
- ii 徴兵した農民を諸国の軍団で管理する軍団兵士制が成立した。
- iii 健児制が成立した。

- ① i－ii－iii ② i－iii－ii ③ ii－i－iii
- ④ ii－iii－i ⑤ iii－i－ii ⑥ iii－ii－i

[設問14] 下線部(j)に関して述べた文として、最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **14** にマークしなさい。

- ① 近江大津宮は、飛鳥浄御原令を制定した持統天皇の時代に造営された宮都である。
- ② 山背国の恭仁京は、聖武天皇の時代に造営された宮都である。
- ③ 平城京北端に置かれた宮（平城宮）の内部には、上級貴族の邸宅が営まれていた。
- ④ 平城京は、朱雀大路を挟んで東側を右京、西側を左京と呼び、東大寺は右京の郊外に造営された。

- II 太政大臣に関する次の文章と、下のA～Eの文章を読んで、各設問に答えなさい。なお、読みやすくするために、史料の表記を書き改めたり、省略した部分がある。また年齢は生年を1歳とする数え年である。

太政大臣は、律令制における国政の最高責任者である。太政官の首席の大臣として左大臣・右大臣の上に立ち、定員は1名だが、適任者がないと置かれなかった。9世紀以降は藤原氏が任じられ、摂政・関白の職と密接に関わるものだったが、10世紀後半以降は次第に名誉職的な存在となっていった。中世・近世においては、この太政大臣に武家が任じられた例が見られる。これについて該当する人物の名前・生没年・太政大臣在任期間をまとめたものが、次の表である。

表 太政大臣に任じられた武家

	名前	(生没年)	太政大臣在任期間
1	平 清盛	(1118～1181年)	1167年
2	足利義満	(1358～1408年)	1394～1395年
3	豊臣秀吉	(1537～1598年)	1586～1598年
4	徳川家康	(1542～1616年)	1616年
5	徳川秀忠	(1579～1632年)	1626～1632年
6	徳川家斉	(1773～1841年)	1827～1841年

※死後に追贈された事例を除く。

- A 表によると、武家として最初に太政大臣になったのは平清盛である。清盛は、伊勢平氏の棟梁で白河上皇・堀河上皇の近臣であった平忠盛の子として生まれた。^(a)保元・平治の乱に勝利し、後白河上皇を武力で支えることによって官位の昇進を遂げ、1167年、50歳のとき太政大臣に任じられた。3か月で太政大臣の職を辞し出家したが、摂津福原にあって、政治の実権を持ちつづけた。娘徳子を高倉天皇の中宮とし、その子の安徳天皇を即位させ、外戚の地位も手にいれた。その一方で高位高官を独占する平氏一族に対する反発も強まり、^(b)各地

で武士団が挙兵し、内乱が全国に広がった。体制を立て直そうとするなかで、清盛は64歳で死去した。

〔設問1〕 下線部(a)について述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **15** にマークしなさい。

- ① 保元の乱で、後白河天皇は左大臣藤原頼長と手を結んだ。
- ② 保元の乱で、後白河天皇は兄の崇徳上皇と争った。
- ③ 平治の乱で、源義朝は後白河上皇の近臣の藤原通憲と手を結んだ。
- ④ 平治の乱で敗れた源義朝の子の頼朝は讃岐に流された。

〔設問2〕 下線部(b)に関連して、源平争乱の時期に起きたことがらに関して述べた次の文 i～iii について、古いものから順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選び、解答欄 **16** にマークしなさい。

- i 平清盛が都を摂津福原に移したが、やがて京都に戻した。
 - ii 源義仲が、北陸で平氏の軍に勝利し、京都に入った。
 - iii 後白河上皇の皇子以仁王らが兵を挙げたが、平氏の軍に敗れた。
- ① i - ii - iii ② i - iii - ii ③ ii - i - iii
 - ④ ii - iii - i ⑤ iii - i - ii ⑥ iii - ii - i

B 表によると、次に武家として太政大臣になったのは足利義満である。義満は、室町幕府2代将軍足利義詮の子に生まれ、11歳で征夷大將軍となった。有力な守護大名の勢力を削減して権力を確立し、南北両朝の合体を実現させて、60年に及ぶ内乱を終わらせた。1394年、37歳のとき将軍職を子の義持に譲り、自分は太政大臣に任じられた。翌年に太政大臣を辞して出家したが、京都北山に山荘を営み、幕府と朝廷に対し実権を持ち続けた。また明に使者を遣わして国交を開いた。51歳で死去した後に、朝廷が太上法皇の称号を贈ろうとしたが、義持が辞退した。

〔設問3〕 下線部(c)に関して述べた次の文 a～d について、正しいものの組み合わせとして最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **17** にマークしなさい。

- a 北朝の天皇は、後醍醐天皇の子孫である。
 - b 南朝の天皇は、後醍醐天皇の子孫である。
 - c 北朝の天皇が南朝の天皇に位を譲る形で合体した。
 - d 南朝の天皇が北朝の天皇に位を譲る形で合体した。
- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

〔設問4〕 下線部(d)の山荘は足利義満の時代の文化を象徴する施設である。これに関連して、足利義満と文化の関わりについて述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **18** にマークしなさい。

- ① 義満の帰依をうけた夢窓疎石が、南禅寺の開基となった。
- ② 義満の側に仕えた善阿弥などの河原者が、枯山水の庭園を造った。
- ③ 義満によって明に遣わされた雪舟が、「秋冬山水図」を描いた。
- ④ 義満に庇護された世阿弥が、能の理論書『風姿花伝』を著した。

〔設問5〕 下線部(e)に関連して、明との国交・貿易について述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **19** にマークしなさい。

- ① 義満は自らを「日本国王」と称し、明の皇帝と対等な立場を主張した。
- ② 明の使節を迎える施設として、博多に鴻臚館を設置した。
- ③ 明への貿易船は勘合と呼ばれる証票を持参することを義務づけられた。
- ④ 日明貿易は、義満の死後、義持の時代にも継続された。

〔設問7〕 下線部(g)に関して述べた次の文 a～d について、正しいものの組み合わせとして最も適切なものを、下の①～⑥のうちから一つ選び、解答欄 **21** にマークしなさい。

- a 出兵した時期の元号によって「文永・弘安の役」と称される。
 - b 肥前名護屋城が出兵の根拠地として築かれた。
 - c 李成桂の率いる朝鮮水軍が日本の補給路に打撃を加えた。
 - d 多くの朝鮮人が捕虜として日本に連行された。
- ① a・b ② a・c ③ a・d
 ④ b・c ⑤ b・d ⑥ c・d

D 表によると、太政大臣になった武家の4人目は徳川家康であり、5人目はその子の秀忠である。家康は、三河岡崎城主松平氏の子として生まれ、今川義元に属したのち織田信長と結んだ。信長の死後、豊臣秀吉に臣従し、小田原の北条氏が滅んだあと江戸に本拠を移した。秀吉の死後、関ヶ原の戦いに勝利し、^(h)征夷大將軍となった。將軍職を秀忠に譲ったあとも駿府で大御所として実権を掌握した。大坂の陣で豊臣氏を滅ぼしたあと、1616年、75歳のとき太政大臣に任じられたが、その年のうちに死去した。

徳川秀忠は27歳のとき、家康から征夷大將軍の職を譲られた。武家諸法度に⁽ⁱ⁾もとづき諸大名の統制を進める一方で、子の和子を後水尾天皇に嫁がせて朝廷との結びつきを強めた。またキリシタン禁制の強化、対外関係の統制をはかる^(j)など幕政の確立に務めた。45歳のときに子の家光に將軍職を譲ったあとも大御所として政治の実権を握り、1626年、48歳のときに太政大臣に任じられた。紫衣事件ののち、孫にあたる明正天皇を即位させ外戚となったが、54歳で死去した。

〔設問8〕 下線部(h)について述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **22** にマークしなさい。

- ① 東軍は徳川家康、西軍は毛利元就が盟主となった。
- ② 東軍には福島正則、黒田長政らが加わった。
- ③ 西軍の石田三成は、戦いのあと八丈島に流された。
- ④ 西軍にくみした上杉景勝は、戦いのあと取りつぶされた。

〔設問9〕 下線部(i)に関連して、秀忠が将軍の時期に出された武家諸法度に記された条文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **23** にマークしなさい。

- ① 文武忠孝を励まし、礼儀を正すべき事。
- ② 大名小名、在江戸交替、相定むる所なり。
- ③ 諸国の居城修補を為すと雖も、必ず言上すべし。
- ④ 殉死の儀、いよいよ制禁せしむる事。

〔設問10〕 下線部(j)に関連して、秀忠が将軍・大御所であった時期（1605～1632）に行われたことに関して述べた次の文 a～d について、正しいものの組み合わせとして最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **24** にマークしなさい。

- a ポルトガル船の来航が禁止された。
- b スペイン船の来航が禁止された。
- c フランシスコ会の宣教師・信徒26人が長崎で処刑された。
- d 高山右近ら300人余りのキリスト教徒がマニラとマカオに追放された。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

E 表によると、太政大臣になった武家の6人目は、徳川家斉である。家斉は三卿の一橋治済の子で、江戸幕府10代将軍徳川家治の養子となり、家治の死後、15歳で征夷大將軍となった。治世の初めの寛政年間には、松平定信が老中に就^(k)

任して幕政改革にあたった。文政年間には、貨幣の改鑄政策がとられ、緩やかなインフレのもと庶民の経済活動が発展するなかで、都市・農村に文化活動が展開した。また家斉の治世は、外国船の来航がたびかさなった時期でもあった。1827年、55歳の時、將軍在職40年を機に太政大臣に任じられた。その10年後、將軍職を徳川家慶に譲ったが、大御所として引き続き実権を握り、69歳で死去した。

〔設問11〕 下線部(k)で実施された政策について述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **25** にマークしなさい。

- ① 十組問屋などの株仲間の解散が命じられた。
- ② 江戸の町々に町費の節約が命じられ、節約分の7割が積み立てられた。
- ③ 江戸の評定所に目安箱を設置することが命じられた。
- ④ 南鐮二朱銀の鑄造が開始された。

〔設問12〕 下線部(l)に関連して、文化・文政期（1804～1830）の文化について述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **26** にマークしなさい。

- ① 式亭三馬が庶民生活のなかの笑いや滑稽さを主題とした小説を書いた。
- ② 与謝蕪村が写実的で絵画的な句をよんだ。
- ③ 鈴木春信が多色刷浮世絵版画を完成させた。
- ④ 河竹黙阿弥が盗賊を主人公にした歌舞伎台本を書いた。

[設問13] 下線部(m)に関連して、家斉が将軍・大御所であった時期(1787～1841)の外国船の到来に関して述べた次の文 i～iii について、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選び、解答欄 **27** にマークしなさい。

- i アメリカ商船モリソン号が浦賀沖に接近した。
 - ii イギリス軍艦フェートン号が長崎に侵入した。
 - iii ロシア使節レザノフが長崎に来航した。
- ① i - ii - iii ② i - iii - ii ③ ii - i - iii
 ④ ii - iii - i ⑤ iii - i - ii ⑥ iii - ii - i

[設問14] 表およびA～Eの文章で説明した6名に関して述べた次の文 a～d について、正しいものの組み合わせとして最も適切なものを、下の①～⑥のうちから一つ選び、解答欄 **28** にマークしなさい。

- a 6名全員が、征夷大將軍または関白のどちらかに任じられた。
 - b 6名全員が、太政大臣に任じられて以後、死去するまで太政大臣の職にとどまっていた。
 - c 太政大臣と征夷大將軍を同時期に兼ねていた者もいた。
 - d 太政大臣と関白を同時期に兼ねていた者もいた。
- ① a・b ② a・c ③ a・d
 ④ b・c ⑤ b・d ⑥ c・d

Ⅲ 次のA～Cの文章を読んで、各設問に答えなさい。

A 日本史探究の授業で、社会そのものを大きく変化させた明治維新の諸過程を学んだ鈴木さんは、先生と次のような会話をした。

鈴木：明治維新の歴史を学んでいる際に歴史総合の授業で学んだフランス革命のことを思い出しました。フランス革命もまた、フランス社会を大きく変化させた点では、明治維新と似ていますよね？

先生：大規模な民衆蜂起が occurred し、人口のわずか2%に過ぎない が、全土地の約40%を所有していながら特権身分として税が免除されていたという旧体制の状況が大きく変わりましたね。例えば , などを覚えていますよね。領主裁判権や賦役、教会による十分の一税も廃止されました。

鈴木：いや、実は詳しい話は忘れていましたが、そういう大きな流れがあったことは覚えています。

先生：明治維新もまた、身分制度によって特徴付けられる江戸時代の社会のあり方を様々な点で変えたことは間違いありません。兵制の変革は支配階層であった武士身分の解体という事態にまで至りました。両者を比較してみるといいのは良い観点だと思います。ただし、明治維新は「四民平等」の世を到来させたと言われることもありますが、明治末年になっても女性には選挙権が付与されなかったことなど、「四民平等」には必ずしも実態が伴っていなかった部分もあった点には注意が必要です。

〔設問1〕 空欄 に入る語として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 にマークしなさい。

- ① 豪商 ② 国王 ③ プルジョワジー ④ 聖職者と貴族

〔設問2〕 空欄 **イ** , **ウ** に入る次の文 a ~ d の組み合わせとして最も適切なものを、下の①~⑥のうちから一つ選び、解答欄 **30** にマークしなさい。

- a パリ市民が専制政治の象徴であるバスティーユの牢獄を襲撃したこと
 - b 結成された国民議会が、いわゆる人権宣言を発表したこと
 - c 国王であるジェームズ2世が海外に亡命したこと
 - d 臨時政府によって、ニコライ2世が退位させられたこと
- ① a・b ② a・c ③ a・d
④ b・c ⑤ b・d ⑥ c・d

〔設問3〕 下線部(a)に関連して明治維新後の社会について述べた次の文 a ~ d の組み合わせとして最も適切なものを、下の①~⑥のうちから一つ選び、解答欄 **31** にマークしなさい。

- a 武士のみに許されていた苗字（名字）が、名主層に限って許されるようになった。
 - b えた・非人と呼ばれていた人々に従来認められていた職業上の独占権がなくなった。
 - c 士族、華族、平民が居住する区域がはっきりと分けられるようになった。
 - d 廃刀令以後、軍人・警察官以外の帯刀は禁止されるようになった。
- ① a・b ② a・c ③ a・d
④ b・c ⑤ b・d ⑥ c・d

〔設問4〕 下線部(b)に関連する次の文 i ~ iii について、古いものから順に正しく配列したものを、下の①~⑥のうちから一つ選び、解答欄 **32** にマークしなさい。

- i 薩長土3藩の兵士1万人で御親兵を組織した。
- ii 既に設置されていた東京、大阪、鎮西（熊本）、東北（仙台）の4鎮台に加え、名古屋、広島にも鎮台を設置した。
- iii 徴兵告諭が出された。

- ① i - ii - iii ② i - iii - ii ③ ii - i - iii
- ④ ii - iii - i ⑤ iii - i - ii ⑥ iii - ii - i

〔設問5〕 下線部(c)について述べた文として最も適切なものを、次の①~④のうちから一つ選び、解答欄 **33** にマークしなさい。

- ① 太政官布告によって被差別身分を廃止したものの、依然として社会的差別が続いた。
- ② 族籍を廃止し全ての国民を平民とする統一的な戸籍が作成された。
- ③ 秩禄処分によって秩禄制が確立し、士族の経済的特権が保障された。
- ④ 廃藩置県が断行された後も、旧藩主は知藩事に任命され、引き続き藩政にあたった。

B 「四民平等」には必ずしも実態が伴っていなかった部分もあったことを先生から指摘された鈴木さんは、華族制度について先生に質問し、以下のような会話をした。

鈴木：封建的身分制度の撤廃が進められたはずの明治維新期に、「華族」が登場するようになったことは不思議に思っていました。

先生：華族の制度は、当初は公卿らの呼称を改めたに過ぎなかったものの、紆余^(d)曲折を経ながらも、徐々に整備されていきました。

鈴木：ちょっと待ってください。ええと、私のメモによると、1869年に華族という呼称が定められ、制度が細かく整備されたのが、1884年に公布された華族令によってということですね。

先生：細かなことを言えば、その間には、華族会館の創建や華族の子弟らを教育する学校として **エ** が開かれたことなども関係がありますね。

鈴木：しかしなぜ、「四民平等」の世に、そんな特権身分と制度を作ったのでしょうか？

先生：一概に説明するのは難しいのですが、華族は皇室の藩屏^{はんぺい}となること、後に設置される貴族院^(e)を構成する議員となることなどが期待されていたと言われています。

[設問6] 下線部(d)について述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **34** にマークしなさい。

- ① 華族令によって、華族を五爵位にわけたほか、華族の範囲を旧上層公家に限定した。
- ② 旧幕臣は華族からも士族からも除外された。
- ③ 華族という呼称が定められた際、旧公卿のみならず旧諸侯も華族とされた。
- ④ 人権指令の発令と同時に華族制度が廃止された。

〔設問7〕 空欄 **エ** に入る学校の名として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **35** にマークしなさい。

- ① 足利学校 ② 弘道館 ③ 学習院 ④ 聖堂学問所

〔設問8〕 下線部(e)について述べた次の文 a～d の組み合わせとして最も適切なものを、下の①～⑥のうちから一つ選び、解答欄 **36** にマークしなさい。

- a 大日本帝国憲法によって設置された立法機関である。
 b 大阪会議の結果、左院を廃して設けられた立法機関である。
 c 皇族議員、華族議員らの世襲議員だけではなく、勅任議員も貴族院を構成した。
 d 直接国税15円以上をおさめた男子は、貴族院議員の被選挙権を得られた。

- ① a・b ② a・c ③ a・d
 ④ b・c ⑤ b・d ⑥ c・d

C 華族制度の導入を、当時の人々がどのように理解したのかという点が気になった鈴木さんは、先生に質問をし、次のような会話をした。

鈴木：やはり、「四民平等」と特権身分の維持・創設という話は矛盾するように私は感じるのですが、当時の人達はすんなりと受け入れていたのですか？

先生：華族についての意見を記した当時の資料に即して見てみましょう。それをまとめた次の表をみてください。立場によりけりで、人それぞれの受け止め方があったようです。

鈴木：なるほど。この表を見て、さらに探究してみます。

表 華族をめぐる様々な意見

人名	著作名	内容
島地黙雷	「華士族論」	華士族が特権を持つことを批判
<u>伊東巳代治</u> (f)	『 <u>朝野新聞</u> 』投書 (g)	華族を「無為徒食」であるとして批判
<u>小野梓</u> (h)	「華士族論」	華士族の称号や特権の廃止を主張
福沢諭吉	「華族を武辺に導くの説」	華族を国民の先頭に立たせるべく軍務につかせることを主張
オ	『一代華族論』	華族は本人一代限りとするべきだと主張
<u>井上毅</u> (i)	「華族叙爵意見」	華族制度の創設によって士族が墮落する可能性があるとして指摘

〔設問9〕 下線部(f)の人物について述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **37** にマークしなさい。

- ① 第一国立銀行頭取を務めたほか、大阪紡績会社の設立に関わるなど、実業界で活躍した。
- ② 伊藤博文、金子堅太郎らと共に明治憲法の起草、制定に尽力した。
- ③ 内相兼帝都復興院総裁として関東大震災後の東京復興計画にあたった。
- ④ 平民社を設立し、社会主義の立場からの社会批評を実践した。

〔設問10〕 下線部(g)の新聞について述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **38** にマークしなさい。

- ① 大阪で創刊された小新聞の元祖である。
- ② 末広鉄腸が編集長を務めた民権派の政論新聞である。
- ③ 福地源一郎が主宰した新聞であり、政府の御用新聞と目された。
- ④ イギリス人ブラックが創刊した新聞である。

〔設問11〕 下線部(h)の人物が巻き込まれた明治十四年の政変について述べた文として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **39** にマークしなさい。

- ① 軍需品購入を巡る贈収賄が露見し、内閣が総辞職した事件である。
- ② 特使を朝鮮に派遣して開国を強く求めるべきとする主張に対し、大久保利通、木戸孝允らが反対した事件である。
- ③ 開拓使官有物払下げ事件に関連して大隈重信らが政府を追放された事件である。
- ④ 陸軍の皇道派青年将校らが首相官邸などを襲撃した事件である。

〔設問12〕 立志社、愛国社の設立に関わったほか、自由党を結成してその総理となった空欄 **オ** に入る人物の名として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **40** にマークしなさい。

- ① 植木枝盛 ② 徳富蘇峰 ③ 中江兆民 ④ 板垣退助

[設問13] 下線部(i)の人物が作成に関わった文書X・Yと、その文書について述べた文a～dとの組み合わせとして最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選び、解答欄 **41** にマークしなさい。

X 教育に関する勅語

Y 軍人勅諭

- a 岩倉使節団に参加した経験を持つ由利公正が起草した。
- b 明治天皇の侍講をつとめた元田永孚らが起草にあたった。
- c 初代文部大臣をつとめた森有礼が起草した。
- d オランダに留学したことのある西周が起草した。

- ① X—a Y—c ② X—a Y—d
- ③ X—b Y—c ④ X—b Y—d

[設問14] 鈴木さんが表から読み取った内容をまとめた次の文a～dについて、正しいものの組み合わせとして最も適切なものを、下の①～⑥のうちから一つ選び、解答欄 **42** にマークしなさい。

- a 島地黙雷は、華族に対しては好意的だったが、士族に対しては批判的だった。
- b 福沢諭吉は、華族制度の廃止を求めてはいなかった。
- c 伊東巳代治は、華族を有為の人材として評価していた。
- d 小野梓は、華族制度に対して批判的であった。

- ① a・b ② a・c ③ a・d
- ④ b・c ⑤ b・d ⑥ c・d